

アライプロバンス

12万²m²の物流施設群計画

建築費150億円 江戸川工場跡地

総合不動産業のアライプロバンス(東京都墨田区、新井嘉喜雄社長)が、東京都江戸川区に所有する江戸川工場跡地の活用で議論を深めている。同社単独による個人施行の土地区画整理事業と一体的に、複数の物流施設建設を検討している。敷地を南北に分け2段階の工期で施設を整備。来春ごろの初弾工事の着手、およそ5年半後の全体完成を目指す。施設規模は総延べ約12万平方メートル、建築費が150億円程度になる見通しだ。

江戸川工場跡地の所在地は東葛西9の23の1(敷地面積約5・7畝)。同社の前身で、石油の掘削機器などの製造を手掛けてきた旧新井鉄工所の工場として使用していた。現在は一部事務所スペースなどを除きほぼ更地。運送会社などに貸し、駐車場や資材置き場として利用している。敷地が「土地区画整理事業を施行すべき区域」に指定されていることなどが

ら、土地区画整理事業の導入を視野に入れる。事業計画の策定を支援するコンサルタントを、日本測地設計

が務める。東京23区内に位置するア



旧江戸川沿いに位置する計画地

クセスの良さと、広大な敷地を生かし、物流施設を建設する方針。物流倉庫に加え、旧江戸川沿いを臨めるカフェやテラス、ジム、コンビニといった機能も設ける考え。アライプロバンスの新井太郎代表取締役専務は「優れた立地を生かし、これまでに類のない物流施設を造りたい」と説明している。

